



目次

◆ TOPICS

- ◆ シンポジウム開催報告
- ◆ 他大学等での講演
- ◆ ヒューマンリソース部門
- ◆ ユビキタスリサーチ支援部門
- ◆ 調査・企画部門

平成18年7月からスタートした女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクトもあと4ヶ月を残すだけになりました。今まで得られた成果をまとめるとともに、更に有効にするために問題点を洗い出し、工夫を重ねているところです。

このような折、内閣府特命担当大臣(少子化対策男女共同参画)小淵優子様が本学のプロジェクトの成果に着目され、2008年11月21日(金)14時から1時間半にわたり本学を訪問され、プロジェクトの進捗状況を視察されました。

2008年7月に日本学術会議科学者委員会男女共同参画分科会(委員長:辻村みよ子東北大学教授、副委員長:小館香椎子日本女子大学教授)から出された提案により、国公立大学に比べて私立大学における男女共同参画の進み方が非常に遅いことが示されました。

そこで今年度までに女性研究者支援モデル育成事業に採択された私立大学が7校になったのを機会に、各大学に呼びかけて、7私立大学合同シンポジウム「男女共同参画の輪を拡げよう」を開催しました。行政のトップクラスの方がたに特別講演を頂き、採択各大学の成果報告に続き、今後申請を考慮されている私立大学の方々にも来て頂いて講演もして頂きました。男女共同参画の輪を拡げることに役立つものと思われまふ。文部科学省では、次年度以降の計画をたて概算要求中と伺いますが、是非この形あるいは発展した形での継続をお願いしたいと思っています。ここに、ニュースレター第4号をお届けします。

TOPICS

～小淵優子内閣府特命担当大臣(少子化対策男女共同参画) 視察来校 2008.11.21～

目白通りの銀杏の黄色が快晴の青空に映える2008年11月21日(金)午後、小淵優子内閣府特命担当大臣(少子化対策男女共同参画)が本プロジェクトおよびリカレント教育システムご視察のため、内閣府男女共同参画局板東久美子局長を伴われ、本学目白キャンパスを訪問されました。

後藤祥子学長のご挨拶に続き、小館香椎子教授より本プロジェクトの内容および成果につき、またソートン不破直子先生よりリカレント教育・再就職システムの概要について説明を行いました。小淵大臣からは、小館教授が別件で大臣をご訪問した折の話から一度直接この目で見てみたいと思っていたとお言葉がありました。

U-リサーチャーなど若手研究者との懇談では、女性研究者の置かれた現状や問題点について直接に本音を聞いて頂きました。U-リサーチャーの一人は遠隔地からのテレビ会議システムを介しての参加でしたが、幼稚園から帰宅したばかりのお子さんも特別出演して趣を添えました。同席された板東局長からは、「これは普通のテレビ会議システムですか?」という質問が出るほど、臨場感に富んだ交流ができ、実験打合せやゼミにおけるシステムの有効性を実感して頂くことができました。研究者を目指している学生6人とも直じきの対話をして頂き、これからの抱負を述べるとともに不安についても考えを聞いて頂きました。いずれのグループも、小淵大臣の輝くように誇り高く胸を張って仕事をしておいで姿を間近に拝見し、自分たちの理想のモデルとして胸に深く焼き付けたことと思います。

さくらナースリーでは、園児たちがおやつテーブルに居並ぶところへ入れられ、ご自身が子育て中のお子様と同年齢の子どもたちに優しく語りかけられました。さくらナースリーは長い歴史があり、本学の先生方も利用したことで、現在のポジションを得ていることなど、日本女子大の取り組みを十分にご理解頂きました。お祝い会のために園児たちがかたどりを焼いたクッキーを手渡しして、お土産にお持ち帰り頂きました。

次のご予定を控えて、分刻みのタイトなスケジュールでしたが、納得され満足して頂いたものと思います。研究者グループも満足、学生グループも感服、若い大臣のご視察を頂いた大学側としても、爽やかな風が通り過ぎたような感じでした。

(プロジェクト推進室長 遠山嘉一 記)

<懇談に参加した若手研究者・学生から>

市川さおり(理学部物質生物科学科 助教)

テレビ会議システムを交えた懇談会という設定が何よりも良かったです。U-リサーチャーの才田さんのお子さん「開斗(かいと)君」が果たしてくれた役目とても大きかったです。

大臣と皆様とお話をして、子育てして働く女性(男性)には、人それぞれ色々な形やスタンスがあつていいんだということをあらためて認識しました。どんな選択をしても引け目を感じず、その時その時でベストだと思った道を信じて歩いていけばよいと、自分に言い聞かせた次第です。

また、小淵大臣ご自身が非常に輝いて誇り高く胸をはってお仕事をされている姿を目の当たりにして、自分の日常にないものを感じ、大変刺激を受けました。



テレビ会議システムを用いた小淵大臣と若手研究者の懇談



さくらナースリーの見学

中嶋薫(数理・物性構造科学専攻 博士課程後期2年)

小淵大臣と懇談の機会を頂きまして大感激でした。しかもお近くで私たち一人ひとりと対等に向き合ってください、お話が出来たことは、この上ない喜びでした。同じ目線で物事を見ていच्छやる姿勢に心を打たれました。小淵大臣が話されていच्छやりましたように、身の回りには様々な科学技術で便利な生活に繋がっています。女性研究者が出産や育児がきっかけで研究を中断することなく、マルチキャリアパス支援システムなどを活用し、一層日本社会が発展することを願ってやみません。お仕事も家庭も子育ても両立される私たちのあこがれのロールモデルとして、日本の代表として、一層ご活躍なされますことをお祈り申し上げます。

シンポジウム開催報告

～7私立大学合同シンポジウム「男女共同参画の輪を拡げよう」 2008.11.1～

共催：東京女子医科大学 日本女子大学 早稲田大学 慶應義塾大学 津田塾大学 東海大学 日本大学

2008年11月1日(土)日本女子大学目白キャンパス成瀬記念講堂にて開催され、遠くは熊本や関西などから150名の参加がありました。

特別講演では、行政サイドとして文部科学省高等教育局私学部長河村潤子氏、文部科学省科学技術・学術政策局科学技術・学術戦略官 岡谷重雄氏、内閣府政策統括官付参事官 久保真季氏から、女性研究者支援を私学の特色として推進されたい、ムーブメントが大切などとのエールを頂きました。また、私学を代表して早稲田大学副学長堀口健治氏からの現状についての報告がありました。

続いて本学理学部教授小館香椎子より、日本学術会議のアンケート結果が問題提起として報告されました。男女共同参画、女性研究者支援については、私立大学の状況が国公立大学に比べて非常に遅れている現状が示され、このシンポジウム開催のきっかけとなった旨の説明がありました。

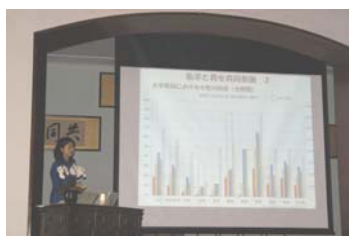
次いで、平成18年度に採択され成果をあげつつある大学3校、平成20年度に新たに採択された大学4校、次年度以降申請を検討している大学5校から、それぞれ成果、計画、検討状況などの報告を頂きました。

小川賀代准教授からの本学の成果に関する発表は、具体的で優れた活動内容が紹介されていたので、行政を含め参加者全員に強烈な印象を与えました。

ポスター展示会場には、大部分の採択大学・機関からと、今後申請を行なおうとする大学ならびに科学技術振興機構などから、30を超えるポスターが並べられ、壮観でした。

開催内容詳細は下記URLをご覧ください

<http://mcm-www.jwu.ac.jp/~mcpweb/symposium/report/index.html>



特別講演：河村潤子氏
(文部科学省高等教育局私学部長)



会場の様子

～2008年度第1回シンポジウム「女性研究者を支える側からみたサポート体制」 2008.7.26～

2008年7月26日(土)新泉山館大会議室にて開催しました。本学教員・学生のほか、本事業関係省庁および受託しているほかの大学・機関から約80名の参加者を得ました。今回は今までと趣を変え、女性研究者を支援している支援者サイドの話を中心にプログラムを作成しました。

基調講演はこのプロジェクトの発足に尽力された元男女共同参画局のお茶の水女子大学学長特別補佐塩満典子教授から行政での支援体制について、資生堂の東和美氏からはご自身の子育て経験に基づいて資生堂での支援制度と、女性研究者への研究費援助制度について話されました。

一般講演は、子育て期には活用された本学教員蟻川芳子副学長からさくらナースリーの役割、市川助教のご主人から単身赴任のご苦労話、今野良彦教授からユニークな家族支援論、遠山嘉一推進室長からは子育て・孫育て支援の話があり、会場は感銘を受けました。



親子3人で参加された
畠中准教授と市川助教



お孫さんの託児所のお迎え
をする遠山推進室長

<プログラム>

(敬称略)

- 司会：日本女子大学 理学部数物科学科 教授 吉井 彰
- 開会の辞 日本女子大学 理学部数物科学科 教授
女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクトリーダー 小館香椎子
 - 学長挨拶 日本女子大学 学長 後藤 祥子
 - 基調講演
「女性研究者のキャリアパス支援策について～政策の現状と進展～」
お茶の水女子大学 学長特別補佐 教授、元内閣府・男女共同参画局調査課長 塩満 典子
 - 「女性研究者が輝き続けるために～資生堂の取組み～」
資生堂 品質評価センター 学術室 東 和美

- 司会：日本女子大学 理学部数物科学科 教授 中島 徹
- 一般講演
「さくらナースリーと私」
日本女子大学 副学長・理学部物質生物科学科教授 蟻川 芳子
「単身赴任と研究・子育て」
九州大学生体防御医学研究所 特任准教授 畠中 秀樹
「共働きについての雑感」
日本女子大学 理学部数物科学科 教授 今野 良彦
「親子二代の支援」
日本女子大学 理学研究科 客員教授
女性研究者マルチキャリアパス支援プロジェクト推進室長 遠山 嘉一
 - 閉会の辞 日本女子大学 理学部物質生物科学科 教授 今城 尚志
 - ◇ 懇親会 目白キャンパス 新泉山館3階共同スペース

他大学等での講演

本年度も 他大学・学協会から多数の講演依頼があり、プロジェクトリーダー・推進室長をはじめ担当教員が本プロジェクトの取組みの紹介などを行っています。

- 2008年9月26日(金) 小川賀代准教授講演 関西国際大学 GPシンポジウム「eポートフォリオの多様な展開と可能性」
(於:神戸国際会館9階大会場)
- 2008年10月9日(木) 小舘香椎子教授講演 第29回日本熱物性シンポジウム (於:日本女子大学桜楓2号館)
- 2008年10月28日(火) 小舘香椎子教授講演
第2回日本大学男女研究者共同参画シンポジウム「日本の女性研究者支援ネットワーク
～各界における整備推進状況と今後の展望～」(於:日本大学会館2F大講堂)
- 2008年10月31日(金) 永田典子准教授講演 第17回バイオイメージング学会学術集会 (於:千葉大学けやき会館)
- 2008年11月22日(土) 小舘香椎子教授講演
第7回東北大学男女共同参画シンポジウム「大学の男女共同参画一見えない壁を打ち破るにはー」
(於:仙台国際センター)
- 2008年11月23日(祝) 遠山嘉一客員教授講演
津田塾大学女性研究者支援センターシンポジウム
「テクノロジー分野で働く女性研究者支援を考えるー日米の事例を中心に」(於:津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス)
- 2008年12月1日(月) 小川賀代准教授講演
「女性研究者支援モデル育成」事業等合同シンポジウムー効果的な女性研究者支援システムを考えるー
(於:東京大学鉄門記念講堂)
- 2008年12月12日(金) 小舘香椎子教授講演
内閣府 男女の仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)推進事業シンポジウム
「ワーク・ライフ・バランス実現に向けた社会基盤構築 新しい研究者・技術者像とは」
(於:早稲田大学大隈記念講堂小講堂)

ヒューマンリソース部門

～ NHK BS1「経済最前線」で紹介されました 2008.11.4 ～

自己分析セミナーの効き脳診断では、ノーベル賞受賞学者の大脳生理学理論を起源とする「脳優勢度調査」と呼ばれているハーマンモデルの受検を簡略化するために開発された診断ツールを使用しています。(テンプスタッフ株式会社、フォルティナ株式会社 開発) 本診断結果より、思考様式を定量化し、能力開発などを支援することが可能です。

この診断を利用している組織の一つとして、日本女子大学がNHK BS1「経済最前線」で紹介されました。効き脳診断導入の経緯と効果について、ヒューマンリソース部門サブリーダー小川賀代准教授がインタビューを受けました。また、効き脳診断の受検の様子と学生の感想も放映されました。



「経済最前線」(2008年11月4日 NHK BS1)

～ 連載 新しい技術者像を探る(産学官連携ジャーナル9月号) 「女性研究者」への2つの視点 ー支援モデル育成事業に携わってー ～

- 求められる周囲の理解
- 多様な「仕事と家庭のバランス」
- 手の届きそうなモデルの役割

ヒューマンリソース部門サブリーダー小川賀代准教授の「『女性研究者』への2つの視点ー支援モデル育成事業に携わってー」が掲載されました。本プロジェクトを通して見えてきた、女性研究者からの、今後の女性研究者支援に必要とされる視点をまとめたものです。本稿では、両立支援の仕組み・インフラは徐々に整いつつあるが、大事なのは周囲の理解や本人の意識改革であり、そして、仕事と家庭の調和(ワークライフバランス)と、ロールモデルという2つの視点を提示しています。

～ 母校出張セミナー(於:清心女子高等学校)を開催しました 2008.9.30 ～



母校で講演をする
木谷加奈さん(理学部数物科学科4年)



実験の様子

これまでの大学で開催していた科学教室に加えて、より広く、より多くの中・高校生に科学・本学の魅力と21世紀に生きる女性への応援の気持ちを伝えられればと思ひ、本学の大学院生・学部4年生による母校出張セミナーを開始しました。第1回目は、2008年9月30日(土)に、本学理学部数物科学科4年の木谷加奈さんと小川が、木谷さんの母校である清心女子高等学校で母校出張セミナーを行いました。清心女子高等学校は、スーパーサイエンスハイスクール(SSH)に指定されている理科教育に大変熱心な高校であり、理科の全分野の教員他、校長先生、教頭先生、進路指導の先生などが、セミナーの様子を見学にきてくださいました。

今回は、高校2年生で物理を履修している7名を対象に行いました。小川から、大学、理学部の紹介、木谷さんから、大学生活、卒論研究について紹介をしました。

続いて「CD分光器とLED発光回路の作成および白色LEDの観察・混色の体験」の科学教室を行いました。物理の特別授業を頂いて実施したため、100分間という大変短い時間でしたが、受講した女子高生にとっても、参加した我々にとっても、大変刺激的な時間となりました。

この母校出張セミナーの様子は、清心女子高等学校のホームページおよび校長先生のブログでも紹介されています。(ヒューマンリソース部門サブリーダー 小川 賀代 記)

～ 日本女子大学札幌サテライトセミナー 「女性が働くということ それを支えるということ」を開催します 2008.12.6 ～

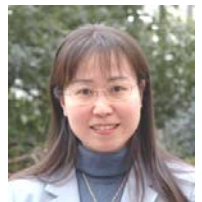
母校出張セミナーの一環として、2008年12月6日(土)に本学札幌サテライトにてセミナーを行います。遠山嘉一プロジェクト推進室長が「女性が働くということ、それを支えるということ」について、本学理学部数物科学科4年の新覚碧さんが「日本女子大学における学生生活」について講演を行います。

～特集1 若手研究者の育成(学術の動向9月号)

キャリアが継続する研究環境 —女性研究者支援事業の支援を受けて—

- 女性研究者のロールモデルとして
- 育児は長丁場、息の長い支援を

- 細くてもキャリアを継続させる
- 女性研究者支援モデル事業との出会い



ユビキタスリサーチ支援部門 サブリーダー
永田典子准教授

(以下、掲載内容一部抜粋)

結婚もしたい、子どもも産みたい。研究者といえども、女性ならば普通に思い描くライフプランである。私も御多分にもれず、研究一筋とは到底いえない、恋や結婚が気になる今時の若者の1人であった。現在、私は女子大学で指導する側となったが、今の女子学生にはますます研究一辺倒の生き方はうけないと感じる。彼女達は、自分にも手が届きそうで、かつライフも充実していて楽しく続けられる職業を求めている。私は子育てもしながら研究を続けてきたが、そんな彼女達の身近なロールモデルでありたいと願っている。(中略)

今、世の中では優秀な女性研究者を育成することが求められているが、それにはまず、女性研究者に対してこのようなワークライフバランスを重視した支援を行うことが大切ではないだろうか。「研究者」が女子学生達みんなの憧れの職業となることで裾野が拡大し、結果的に優秀な女性研究者が数多く輩出されるに違いない。

～病児保育を利用して～ 2007年10月より開始した病児保育制度は、利用中のU-リサーチャーから好評を得ています。

藤原宏子(理学部物質生物科学科 学術研究員)

子どもの年齢:2歳

研究内容:鳥類の音声記憶についての神経行動学的研究

蕪木智子(家政学部食物学科 助教)

子どもの年齢:1歳、4歳

研究内容:蛋白質エネルギー栄養障害における免疫機能の解析

「これまで20年以上継続してきた鳥の研究を、本支援を受けることにより、出産後も続けることができている。特に、「病児保育」には助けられています。「明日は絶対に実験をやらなければならない」という時、「コンコン」という子どもの咳の音。翌日の病児保育を急いで予約。おかげで、計画した実験を確実に実行することができました。翌日になって、心配をよそに子どもが元気になったこともありました。このような時に早朝ならば無料でキャンセルができます。病児保育のシステムは、子どもが実際に病気になったときに役立つことはもちろんのことですが、それに加えて、普段から研究者に安心感を与えてくれる点も大きいと思います。また、病気の子どもに対する配慮がなされていて、保育の質の高さにも満足しています。」

「病児保育をお願いする際、事前に業者の方と子供を交えて面接や打ち合わせすることが出来たので、安心して預けることが出来ました。また、預けていた時間の子供の様子(排泄や昼寝、ご機嫌等々)を記録する連絡シートなどのフォーマットやシステムが整っており、レスキュー隊と呼ばれる保育者の方とのやりとりに加え帰宅後に病態の把握ができる点もよかったです。子供は前日まで暴れまわって元気でも、朝突然発熱ということもあります。フローレンスは当日朝7時の連絡でもレスキュー隊が駆けつけてくださったので、忙しい朝に子供の預け先に頭を悩ませたり、仕事への支障もなく大変助かりました。」

調査・企画部門

今年度も夏休み期間を中心に多数の科学教室を開催し、親子での参加により科学の面白さを体感してもらいました。

<中学生の科学教室>

2008.7.26 参加人数:56名

電子情報通信学会との共催にて、「不思議がいっぱい科学の世界」光ファイバー、超伝導の実験を行い29名の中学生と27名の保護者が参加しました。保護者にも楽しんで頂けました。

<理学部サマースクール>

2008.8.4~11 参加人数:136名

「ランダムな現象を探る」、「音を目で見てみよう!!」、「作ってみよう 蛍光物質と藍染め染料」、「挑戦!DNA実験」など全12講座136名の高校生・中学生の参加がありました。

<夏休み自由研究シリーズ>

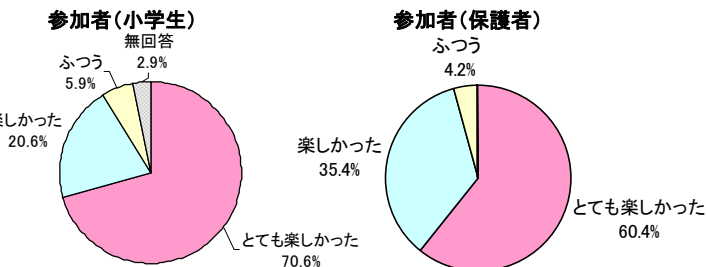
2008.8.21・27・28 参加人数:84名

「光がつくる3次元の世界-ホログラフィー」、「ザリガニの行動の不思議」、「凧はなぜ揚がる?」の3講座を開催し、84名の小学生が参加しました。低学年は保護者が参加し、親子で楽しく実験や工作をしました。

<子供科学教室での親子アンケート結果>

サマースクール・子供科学教室の参加者にアンケートをおこないました。子供科学教室は小学生が対象で保護者と一緒の参加者が大多数でした。いずれの講座も「とても楽しかった」との回答が非常に多く、機会があればまた参加したいとの回答も多数を占めました。

Q. 本日の科学教室に参加して楽しかったですか?



Q. 来年度以降もこの大学の子供科学教室に行きたい(参加させたい)と思いますか?

